

# 此花区医師会 防災の取り組み

## 目次

- |  |        |
|--|--------|
| 1. 南海トラフ巨大地震による津波を想定した防災における医師会の業務       | P2     |
| 2. 此花区医師会 診療所用防災マニュアル作成支援プログラム           | P3～5   |
| 3. 此花区医師会防災アクションプラン 自宅用                  | P6～7   |
| 4. 此花区医師会防災アクションプラン 医院用                  | P8～10  |
| 5. 此花区医師会防災アクションプラン解説 自宅用                | P11～14 |
| 6. 医療機関における防災力強化のための事業継続計画(BCP)策定支援プログラム | P15～28 |

# 南海トラフ巨大地震による津波を想定した 防災における医師会の業務

## ■災害発生前の業務

1. 会員の防災意識の向上と診療所用防災マニュアル作成支援
2. 災害時における情報伝達手段の構築

## ■災害発生時の業務

1. 此花区医師会会員の被害状況の集約
2. 此花区内での医療資源の確認
3. 行政と連携して救護所の設置運営の協力
4. 各介護関連事業所との情報共有し在宅医療介護の継続維持

# 此花区医師会 診療所用防災マニュアル作成支援プログラム

平成30(2018)年10月17日

今後 30 年間に南海トラフ巨大地震に見まわれる確率は 70-80% (政府地震調査委員会) と想定されています。その際、此花区は津波により 110 分後に最大 6m の浸水が予想されています。

このプログラムは災害後の医院経営継続を目的として医院ごとに防災マニュアルを作成していただくためのものです。地震発生から津波襲来までの 110 分に行うべきことを診察時間内、診療時間外、夜間、旅行中をも含めて対応を決めておく必要があります。

情報収集、直ちに災害モードへの気持ちの切り換え、正常性バイアス(※1)・集団同調性バイアス(※2)・感情バイアス(※3)に陥らないことが大切です。「災害はいつかやってくる。でもまさか今日だったとは！」ということにならないよう、今できる準備をしておきましょう。

## 1. 自己と家族の生命の確保 (此花区医師会 防災アクションプラン自宅用を参照)

### (1) 家の中にいたら

- 頭のガード●揺れがおさまったら火の始末●すぐには飛び出さない●安否の確認

<http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000012060.html>

### (2) 外出していたら

<http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000012064.html>

### (3) 日頃の準備

- 持ち出し品の準備

<http://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/files/j572181/doc/41848/537020.pdf#search=%27%E5%A4%A7%E9%98%AA%E5%B8%82+%E6%B4%A5%E6%B3%A2+%E6%8C%81%E3%81%A1%E5%87%BA%E3%81%97%E5%93%81%27>

- 備蓄品の用意(7日間)
- 家の中に安全空間を 家具の固定、ガラス飛散防止シートなど
- 住宅の耐震化
- 避難場所、避難路の確認

自宅周辺の避難ビルの確認  
診療所周囲の避難ビルの確認

<http://www.city.osaka.lg.jp/konohana/cmsfiles/contents/0000261/261636/tunamimap3.pdf>

●地震が発生したときの連絡方法と落ち合う場所の確認

家族間での連絡手段の構築 メール、LINE、伝言ダイヤル171(音声)、Web171  
連絡の取れないときの待ち合わせ場所等の決定

2. 診察時間内:院内患者の安全確保 速やかな避難誘導

火の元の始末  
コンピュータなど電源を切る。  
医院のブレーカーを落として退出。

3. 従業員の安否確認

連絡手段の構築 メール、LINE、伝言ダイヤル 171(音声)、Web171  
被害レベルによって予め出勤条件を決めておく。 例)震度6以上は自宅待機

4. 診療情報の確保

あらかじめクラウドでバックアップをしておく。  
外付けハードディスクにバックアップしておき、持って避難する。  
紙カルテの場合は保管場所を考慮しておく。

5. 在宅患者の安否確認、学校医は担当学校との連絡確認

あらかじめ伝言ダイヤル 171(音声)の使用法を指導しておく。  
可及的速やかに訪問

6. 自院診療継続の可否確認 事業継続計画(BCP)策定支援プログラムを参照

備蓄  
建物・診察器具の被害想定と災害復旧シミュレーション(資金繰りの試算など)  
診療情報の確保  
従業員の確保  
ライフライン(電気、上下水道、ガス)  
院内・院外の薬品の確保

## 7. 地域医療継続への医療資源の提供

医師会を通じて被害状況、可能な医療資源について集約

学校区ごとの連絡網の構築と情報収集

停電、電話が通じない状況下での連絡網の構築が必要 ⇒ このはネットの掲示板の利用

災害時チェックリスト

自院診療継続の可・不可を住民への周知:張り紙等

自院診療不可の場合、救護所等への医師の出務

## 8. 医師会の業務

会員の防災意識の向上と防災マニュアルの作成の援助

此花区医師会会員の被害状況の集約

此花区内での医療資源の確認

行政との連携にて救護所の設置協力

介護関連事業所との情報共有と協力

此花区医師会防災アクションプラン 自宅用、医院用および事業継続計画(BCP)策定支援プログラムを活用して災害に備えていきます

(※1) 正常性バイアス :先入観にとらわれ、異常事態でも「正常の範囲」と誤認し、対応を誤る心理的傾向

(※2) 集団同調性バイアス :集団に依存し、異なる行動をとりにくくなる心理的傾向

(※3) 感情バイアス :心地よい感情効果のあることを信じたがり、不快情報や精神的苦痛を与えるような厳しい事案を受け入れたがらない心理的傾向

此花区医師会防災アクションプラン 自宅用 作成日 年 月 日

被害の種類	事前対策	該当項目をチェックして下さい。
被災予測	ハザードマップの入手	<input type="checkbox"/> ハザードマップを入手している <input type="checkbox"/> 此花区地域防災計画入手している
家屋の倒壊	耐震性の向上	<input type="checkbox"/> 建物は 1981 年以後の建築である <input type="checkbox"/> 耐震診断や必要な耐震補強をしている
家具の飛散	家具の固定ガラス飛散対策	<input type="checkbox"/> 家具等転の倒防止・固定をしている <input type="checkbox"/> ガラス飛散対策をしている <input type="checkbox"/> 寝室の安全対策をしている
出火	初期消火、出火防止	<input type="checkbox"/> 消火器を手に取り、使い方を確認している <input type="checkbox"/> 電気ブレーカーの場所を確認している
津波	避難	<input type="checkbox"/> 最寄りの津波避難場所を把握している <input type="checkbox"/> 避難訓練をしている
通報	防災無線等の充実	<input type="checkbox"/> 携帯電話の充電対策をしている <input type="checkbox"/> 無線などの用意と訓練をしている
情報収集と伝達	伝達網の整備	<input type="checkbox"/> 家族との伝達方法を決めている
安否確認	安否確認網の整備	<input type="checkbox"/> 家族との安否確認方法を決めている
避難誘導	避難誘導	<input type="checkbox"/> 家族の避難場所を確認している
要援護者支援	避難援助	<input type="checkbox"/> 要介護者の援助方法を決めている
避難所生活	地域、避難所の状況確認	<input type="checkbox"/> 家族の避難所生活を具体的に想定し、緊急持ち出し用品、防災グッズを決めている。 <input type="checkbox"/> 防災グッズは実際に使用したことがある

避難所の給食・給水	備蓄	<input type="checkbox"/> 避難所生活が長期に続くことを想定し、対策・備蓄を相談している <input type="checkbox"/> 試食・試飲を全員がしている
避難所の要援護者の生活支援	支援内容の把握	<input type="checkbox"/> 介護の必要な高齢者、乳幼児などの被災生活を想定し準備している
健康管理	健康管理マニュアル整備	<input type="checkbox"/> 家族の治療薬、食事療法などに関する情報を取りまとめている
自宅・車避難者の給食・給水	水、食料、災害時トイレの備蓄、買い置き の推進、野外調理器具	<input type="checkbox"/> 長期にライフラインがない状況での自宅避難を想定し対策・備蓄を相談している。 <input type="checkbox"/> 水・食料の備蓄をしている <input type="checkbox"/> 簡易トイレを用意している <input type="checkbox"/> 試食・試飲を全員がしている <input type="checkbox"/> 野外調理具は実際に使用したことがある
帰宅困難、出社困難	出勤方法	<input type="checkbox"/> 方法について計画している <input type="checkbox"/> 徒歩通勤訓練をしている

此花区医師会防災アクションプラン 医院用 作成日 年 月 日

被害の種類	事前対策	該当項目をチェックして下さい。
被災予測	ハザードマップの入手	<input type="checkbox"/> 入手している(自院) <input type="checkbox"/> 入手している(応急救護所)
建屋の倒壊	耐震性の向上	<input type="checkbox"/> 建屋は 1981 以後の建築である <input type="checkbox"/> 耐震診断している <input type="checkbox"/> 必要な耐震補強をしている
医療機器・設備の損壊	機器の固定ガラス飛散対策	<input type="checkbox"/> ロッカーやラックなどの固定をしている <input type="checkbox"/> コンピューターの転倒防止をしている <input type="checkbox"/> 医療機器・事務機器の転倒防止をしている <input type="checkbox"/> ガラス飛散対策をしている
診療情報の喪失	診療情報のバックアップ	<input type="checkbox"/> 診療情報をクラウド上にバックアップ <input type="checkbox"/> 持ち出しハードディスクにバックアップ <input type="checkbox"/> 紙カルテは保管場所を考慮
出火	初期消火	<input type="checkbox"/> 消火器を用意している <input type="checkbox"/> 消火訓練をしている
津波	避難	<input type="checkbox"/> 最寄りの津波避難場所を確認している <input type="checkbox"/> 避難訓練をしている
通報	災害時通報手段の充実	<input type="checkbox"/> 携帯電話の充電対策をしている <input type="checkbox"/> インターネット環境の整備と訓練をしている
情報収集と伝達	伝達網の整備	<input type="checkbox"/> 災害時、職員との伝達方法を決めている <input type="checkbox"/> 災害時、区医師会との伝達方法を構築している
安否確認	安否確認網の整備	<input type="checkbox"/> 職員との安否確認方法を決めている

帰宅困難	帰宅・避難方法	<input type="checkbox"/> 方法について計画している <input type="checkbox"/> 徒歩通勤訓練をしている <input type="checkbox"/> 帰宅困難者用の備蓄をしている
避難誘導	避難誘導	<input type="checkbox"/> 来院者の避難誘導訓練をしている <input type="checkbox"/> 非常口周囲の安全確保をしている <input type="checkbox"/> 院内避難経路の転倒防止・可燃物排除をしている
要介護者支援	避難援助	<input type="checkbox"/> 要介護者の避難援助方法を決めている
緊急避難場への避難	地域、避難場の状況確認	<input type="checkbox"/> 最寄りの緊急避難場を把握している <input type="checkbox"/> 緊急時持ち出し医薬品・医療用品を準備している <input type="checkbox"/> 防災ヘルメット・防災ベスト・雨天・防寒用衣料を用意している。
避難所・応急救護所への避難	避難所・応急救護所の状況確認と備蓄	<input type="checkbox"/> 最寄りの避難所を把握している <input type="checkbox"/> 最寄りの応急救護所を把握している <input type="checkbox"/> 徒歩避難訓練・出動訓練をしている <input type="checkbox"/> 応急救護所への持ち出し医療用品を準備している <input type="checkbox"/> 自身の非常用の水・食料を準備している
ライフラインの途絶	自院の備蓄	<input type="checkbox"/> ライフラインが無い状況を想定した対策会議を実施している <input type="checkbox"/> 簡易トイレを準備している <input type="checkbox"/> 簡易給水バックを準備している
		<input type="checkbox"/> 手書きのカルテ・処方箋を用意している <input type="checkbox"/> 非常用電源を用意している <input type="checkbox"/> 備蓄内容を定期的に確認している

<p>感染症対策</p>	<p>標準感染予防接触感染予防 飛まつ感染予防空気感染予防</p>	<p><input type="checkbox"/>日頃から標準感染予防の徹底を図っている</p> <p><input type="checkbox"/>咳エチケットの指導をしている</p> <p><input type="checkbox"/>常用の感染症対策用品(マスク、グローブ、ゴーグル、消毒液等)は常に一定の在庫量を確保している</p> <p><input type="checkbox"/>N95 やフェイスシールド、ガウンなど平時は使用しないものも含めて感染対策用品を備蓄している</p>
<p>業務再開</p>	<p>復旧計画・BCP の整備</p>	<p><input type="checkbox"/>方法について計画している</p> <p><input type="checkbox"/>BCP を整備している</p> <p><input type="checkbox"/>業務再開時の連絡方法を決めている</p>

## 此花区医師会防災アクションプラン解説 自宅用

被害の種類	事前対策	説明
被災予測	ハザードマップの入手	<p>水害ハザードマップ(此花区)は災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したものです。自宅や勤務先における地震(津波、震度、液状化)、洪水、土砂崩れなどの被害予想を知ることができます。また、危険個所の把握や避難路の確認にも役立ちます。ハザードマップはインターネット経由で大阪市のホームページから入手できます。</p> <p>水害ハザードマップ(此花区)  <a href="http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000300823.html">http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/page/0000300823.html</a></p> <p>マップナビおおさか  <a href="https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/webgis/?z=18&amp;ll=34.6830561235335%2C135.452283833782&amp;mp=9&amp;bg=BG2-0&amp;vlf=1-14-000002">https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/webgis/?z=18&amp;ll=34.6830561235335%2C135.452283833782&amp;mp=9&amp;bg=BG2-0&amp;vlf=1-14-000002</a></p> <p>此花区地域防災計画にも重要な情報が掲載されています。  <a href="http://www.city.osaka.lg.jp/konohana/page/0000305886.html">http://www.city.osaka.lg.jp/konohana/page/0000305886.html</a></p>
家屋の倒壊	耐震性の向上	<p>1981年(昭和56年)6月から建物の耐震基準が強化され、阪神大震災以後の大地震においてもこの基準を満たした建物は倒壊が少ないことが確認されています。逆にそれ以前の建物、特に木造住宅に関しては耐震診断を受けることが強く推奨されます。大阪市内においても民間戸建住宅等の耐震診断・改修等補助制度があります。耐震診断、耐震改修設計、耐震改修工事に助成制度があります。是非耐震診断を行い、必要な耐震補強を実施して下さい。</p> <p><a href="http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000370839.html">http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000370839.html</a></p>

家具の飛散	家具の固定 ガラス飛散対策	大地震における負傷者の 30-50%が家具類の転倒落下によるとされています。家具の固定・ガラス飛散対策は最も身近で効果的な防災対策です。家具の固定は L 字金具などで壁に直接ねじで固定する方法が最も効果が高く、ポール式は天井を突き破る可能性があり、マット式やストッパー式は単独での効果は小さいと言われています。 「家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック」東京消防庁 <a href="http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/">http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/</a>
出火	初期消火	各自治会等で行っている地域防災訓練に参加して消火器の使用法を学んでおきましょう。避難の際には電気ブレーカーを OFF にして避難後の出火を防止しましょう。
津波	避難	此花区でも津波避難ビルの指定が進んでいます。此花区津波避難マップで最寄りの避難所を確認してください。さらに徒歩での避難時間も知っておく必要があります。此花区では早ければ 110 分ほどで津波が到達すると予想されています。 此花区津波避難マップ <a href="http://www.city.osaka.lg.jp/konohana/cmsfiles/contents/0000261/261636/tunamimap3.pdf">http://www.city.osaka.lg.jp/konohana/cmsfiles/contents/0000261/261636/tunamimap3.pdf</a>
通報	災害時情報共有システムの構築	携帯電話の充電対策としては乾電池による充電器や大容量バッテリーによる充電器に加えてアウトドア用にソーラー発電による充電器等も市販されています。此花区医師会では患者情報共有システム「バイタルリンク」を用いて行政と医師会、医師会会員を繋ぐ情報共有システムの構築を図っています。
情報収集と伝達	伝達網の整備	家族との伝達方法は必ず決めておく必要があります。避難所の掲示板の利用や NTT 災害伝言ダイヤルなども利用できます。災害用伝言ポケットガイドもご利用下さい。危険を冒して迎えに行く事態を避けるために

安否確認	安否確認網の整備	保育園や幼稚園、介護施設などとも災害時の連絡方法や避難場所についても確認しておく必要があります。通話が繋がり難い時でもメールや SNS (LINE やこのはネット) は繋がる場合があります。
避難誘導	避難誘導	自宅近くの避難所に加えて勤務先などの避難所も確認してください。水害ハザードマップ(此花区)、此花区津波避難マップ(上記)で確認して下さい。
要介護者支援	避難援助	要介護者の避難方法を検討しておく必要があります。人手が必要な場合、あらかじめ近隣の方に助けを求めておく必要もあります。
避難所生活	地域、避難所の状況確認	命を守るための緊急持ち出し用品と、生活のための備蓄品とは明確に区別して下さい。備蓄品の全てを持ち歩くことはできません。避難所ではシートやスリッパなども必要になります。非常用持ち出し品には下記のようなものがあります。あらかじめナップサックなどに入れておくと便利です。(●懐中電灯、ヘッドランプ●雨具、防寒具、軍手●救急箱、常用薬、お薬手帳●ラジオ、携帯電話、無線機●メガネ、筆記用具、メモ用紙●万能ナイフ、ライター●水筒、ペットボトル、行動食●洗面用具、生理用品●防寒シート、スリッパ●ザック・バックパック)
避難所の給食・給水	備蓄	水の備蓄は一人 1日3L×日数と言われています。しかし、緊急に無理なく持ち出せるのは 1L から 1.5L 程度と思われるので、残りは自宅に残しておくことになります。避難所では自身で調理をすることは困難ですので持ち出す食品も限られることになります。
避難所の要介護者の生活支援	支援内容の把握	乳児はミルクやおしめ、衛生消毒用品、高齢者はそれぞれの状態にあった食品や常備薬などが必要です。感染症予防や褥創対策などへの配慮も必要です。さらにペットを同伴する場合はペットフード、ペット用トイレなどが必要になります。
健康管理	健康管理マニュアル	家族の治療薬、食事療法、アレルギーなどに関する情報もお互いに把握しておくようにしましょう。

<p>自宅・車避難者の給食・給水の推進</p>	<p>水、食料、災害時トイレの備蓄、買い置き</p>	<p>水の備蓄は保存水(有効期限 5 年)を利用する方法もありますが、ペットボトルを買い置きする、宅配のウォーターサーバーを利用して備蓄する方法もあります。備蓄の食料品としては氷砂糖、缶詰、乾パン、アルファ米の賞味期限が 5 年程度と長く、カップ麺は半年程度です。アルファ米は山岳用にピラフやドライカレーとして調理されたものが比較的味が良くて水でももどせるので便利です。備蓄はなるべく普段から使用するものを買い置きするようにしてデッドストックをなくす工夫をすると実施しやすくなります。自宅で避難生活を送るためには簡易トイレが必要になります。ゴミとして出します。ペット用の吸水消臭剤を流用して簡易トイレを作ることができます。調理にはボンベ式のガスコンロやアウトドア用の調理器具、バーベキュー用調理具などが使用できます。日頃から使い慣れていると安心です。</p>
<p>帰宅困難、出社困難</p>	<p>出勤方法</p>	<p>帰宅困難になったことを想定して勤務先にもある程度の備蓄が必要です。徒歩での帰宅経路などについてもハザードマップを使って検討しておく必要があります。</p>

# BCP (Business Continuity Plan)

この事業継続計画(BCP)は、地震や台風などの自然災害や、火災、テロ・戦争、サイバーテロ、新型インフルエンザなどの緊急・重大な事象が発生し医療業務の継続が困難になった時に、中核となる事業を継続し、あるいは中断してもできるだけ短期間で再開させることにより被害を最小限にとどめることを目的として作成されています。

医療機関名	
作成日	年 月 日

---

この資料は比較的小規模の医療機関が BCP を簡便に作成できるように作られています。  
表内の各項目に記入をして下さい。

# BCP の基本方針

BCP 策定・運用の目的	<input type="checkbox"/> 災害時に、地域住民の命を守るために医療機能を継続させることは医療機関の重要な責務である。 <input type="checkbox"/> 事業継続・早期復旧は職員の生活を守るためにも重要である。 <input type="checkbox"/> 被害想定の下、あらかじめ対応策を検討し、訓練を行い、関連機関と連携を深めることで、災害時の業務中断を最小限に止め、早期復旧を実現する。
BCP を実施する上での行動基準	<input type="checkbox"/> 職員の安全を最優先する。 <input type="checkbox"/> 来院者の安全確保に注力する。 <input type="checkbox"/> 施設・設備、通信の保全対策を行う。 <input type="checkbox"/> 平時より関係機関との連携を強化する。 <input type="checkbox"/> 重要な医療業務を優先的に復旧・継続する。 <input type="checkbox"/> 災害発生時には頭の中を災害モードに切り替える。注) <input type="checkbox"/> Command control 指揮の確立、Safety 安全の確認、Communication 情報伝達、Assessment 評価、Triage 優先事項の実施(CSCAT)を常に念頭に置く。注)

大規模災害に見舞われた時にどのように対処するべきか。「目的」では自身の医療機関が患者さんにとって、従業員にとって、地域にとってどのような存在であるのか考慮し目標を簡潔に示します。「行動基準」では、全従業員が迅速に適切な行動ができるように行動判断の基準となる理念を明示します。必要な事項を追記して下さい。

注) 解説が後述の災害対策のゴールデンルールにあります。

# BCP の策定・運用体制

1. BCP の作成体制		
①責任者		
②サブリーダー（複数可）		
2. 平時における BCP の運用推進体制		
①責任者		
②サブリーダー（複数可）		
③連携する取引先企業や協力会社		
④一緒に取り組む組織	此花区医師会	
⑤BCP 運用の対象者	従業員・協力会社の全員	
3. 緊急時における BCP の発動体制		
①責任者		代行者
②来院者対応サブリーダー（役職名可）		代行者
③従業員対応サブリーダー（役職名可）		代行者
③協力会社対応サブリーダー（役職名可）		代行者
④その他のサブリーダー		
備考		

1. BCP の作成は少人数のプロジェクトにて短期間集中で行って下さい。2. 平時は BCP に基づく備蓄・訓練の実施、協力会社との意見交換、内容の定期的な見直しを行って下さい。3. 緊急時の発動体制では代行者も必ず指名して下さい。

# 中核事業と重要業務

1. 当医療機関の事業内容	
院内業務: <input type="checkbox"/> 外来診療 <input type="checkbox"/> 外来検査 <input type="checkbox"/> 外来手術 <input type="checkbox"/> 外来リハビリ <input type="checkbox"/> 検診 <input type="checkbox"/> 予防接種 <input type="checkbox"/> 産業医 <input type="checkbox"/> 透析 <input type="checkbox"/> 在宅酸素 <input type="checkbox"/> 往診 <input type="checkbox"/> 在宅医療 <input type="checkbox"/> デイケア <input type="checkbox"/> ショートステイ <input type="checkbox"/> 施設委託医 <input type="checkbox"/> 入院診療 <input type="checkbox"/> 出産	
院外業務: <input type="checkbox"/> 応急救護所への出動	
2. 上記の内社会的必要性の高い事業	<input type="checkbox"/> 応急救護所への出動
3. 〃 経営維持のために必要性の高い事業 (平時収益の 50-60%超が目標)	<input type="checkbox"/> 外来診療

4. 当医療機関が災害時にも継続すべき中核事業 (上記の内容を検討し、継続すべき中核事業を下記の様に定める。)	
<input type="checkbox"/> 応急救護所への出動 <input type="checkbox"/> 外来診療	

5. 中核事業を継続するための重要業務	
<input type="checkbox"/> 医薬品の調達 <input type="checkbox"/> 物品の調達 <input type="checkbox"/> 受付業務 <input type="checkbox"/> 診察 <input type="checkbox"/> 処方箋発行	

災害復旧時に優先させるべき業務を明らかにすることは事業継続・早期復旧を目指す上で重要です。表に従い中核事業と重要業務を明確にして下さい。該当するものにはチェックを、追記すべきものは追記をして下さい。

# 各種災害リスクの評価

想定される災害		参考事項	リスク評価
地震		想定震度、液状化の有無類焼危険度、建屋の耐震性	<input type="checkbox"/> 想定震度は震度 6 弱以上である 震度_____ <input type="checkbox"/> 液状化の可能性が高い <input type="checkbox"/> 類焼危険度が高い <input type="checkbox"/> 建屋の耐震性が低い
津波		津波浸水地区津波到達時間	<input type="checkbox"/> 津波浸水地区である <input type="checkbox"/> 津波到達時間 _____分
風水害	河川の氾濫	浸水予測地区	<input type="checkbox"/> 浸水予測地区である
	土砂災害	危険地区、警戒地区	<input type="checkbox"/> 危険地区である <input type="checkbox"/> 警戒地区である
	高潮	海拔	<input type="checkbox"/> 海拔_____m
	その他		
パンデミック		ハイリスク者の割合院内感染の危険性	<input type="checkbox"/> ハイリスクの患者さんが多い <input type="checkbox"/> 院内感染の危険性が高い
その他			

地震、津波、河川の氾濫、土砂災害などは大阪市のハザードマップ、マップナビおおさか から当該地の危険度を調べることができます。

# インフラ喪失による重要業務への影響

主要インフラ	具体的影響
電気	<input type="checkbox"/> 照明の停止 <input type="checkbox"/> エアコンの停止 <input type="checkbox"/> レセコン・電子カルテの停止 <input type="checkbox"/> パソコンの停止 <input type="checkbox"/> コピー機の停止 <input type="checkbox"/> 院内電話機停止 <input type="checkbox"/> 滅菌器停止 <input type="checkbox"/> レントゲン装置停止 <input type="checkbox"/> 各種検査機器停止 <input type="checkbox"/> 自動ドア・エレベーター停止 <input type="checkbox"/> テレビの使用不可 <input type="checkbox"/> 洗濯機・乾燥機停止
電話回線	<input type="checkbox"/> 緊急連絡・安否確認の障害 <input type="checkbox"/> 業務再開指示の障害 <input type="checkbox"/> 物品の発注障害 <input type="checkbox"/> 処方確認の障害 <input type="checkbox"/> 病院との連携の障害
インターネット回線	<input type="checkbox"/> メール・SNS の障害 <input type="checkbox"/> 電子カルテ障害の可能性 <input type="checkbox"/> 物品の発注障害
上水道	<input type="checkbox"/> トイレ使用不可 <input type="checkbox"/> 衛生管理の障害 <input type="checkbox"/> 滅菌機使用不可
下水道	<input type="checkbox"/> トイレの使用不可 <input type="checkbox"/> 汚水排水不可
ガス	<input type="checkbox"/> 給湯障害
交通	<input type="checkbox"/> 物品の供給途絶 <input type="checkbox"/> 搬送の障害 <input type="checkbox"/> 産業廃棄不可

考えられる影響を追加してください。この評価に基づき災害対応データベースフォームの備蓄計画・実施状況リストを作成してください。

# 災害発生段階ごとの実施業務

平常時	警戒期	災害発生	初動期	緊急対応期	復旧期	業務再開期
<input type="checkbox"/> BCP の策定 <input type="checkbox"/> 資源備蓄 <input type="checkbox"/> BCP 教育 <input type="checkbox"/> BCP 演習	<input type="checkbox"/> 情報収集 <input type="checkbox"/> 保全対策 <input type="checkbox"/> 避難準備 <input type="checkbox"/> 避難開始		<input type="checkbox"/> 安全確保・避難 <input type="checkbox"/> 初動体制の構築 <input type="checkbox"/> 災害対策本部設置 <input type="checkbox"/> 緊急連絡	<input type="checkbox"/> 火災の有無確認 <input type="checkbox"/> 建屋周囲の安全確認 <input type="checkbox"/> 被害状況の把握 <input type="checkbox"/> 安否確認 <input type="checkbox"/> 救命・救助 <input type="checkbox"/> 二次被害発生防止	<input type="checkbox"/> 施設設備応急復旧 <input type="checkbox"/> 要員確保 <input type="checkbox"/> 物流確保 <input type="checkbox"/> 地域被災者の支援	<input type="checkbox"/> 業務再開 <input type="checkbox"/> 目標復旧時間達成 <input type="checkbox"/> 被災従業員の生活・再建支援
目標復旧時間・日数			時間	日	日	日

空欄へは各医療機関にて発生段階ごとに追加して実施すべきことを記入して下さい。部署ごと、災害の種別ごとに分けて作成することも可能です。その際は表題横に部署名、災害種別の記入もして下さい。目標復旧日数も決めてください。収益が無い状態で固定費を支払続けることができる日数が業務再開までの最大限度となります。

# 重要業務人員配置

重要業務	責任者	主要作業人員配置			備考
		作業内容	現担当者	代替可能者	

重要業務に最小限必要な人員配置を検討します。代替え可能者の有無も重要です。

# 重要業務に必要な施設・設備と代替設備

業務内容	必要な施設・設備	代替え設備
<input type="checkbox"/> 受付業務 <input type="checkbox"/> 外来診察 <input type="checkbox"/> 処方箋発行	<input type="checkbox"/> 電子カルテ <input type="checkbox"/> レセコン <input type="checkbox"/> 診察券発券機 <input type="checkbox"/> プリンター <input type="checkbox"/> 滅菌器 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 水道	<input type="checkbox"/> 紙カルテ <input type="checkbox"/> 紙処方箋 <input type="checkbox"/> 複写用カーボン紙 <input type="checkbox"/> 各種ディスポ用品 <input type="checkbox"/> 仮設・簡易トイレ <input type="checkbox"/> 簡易給水バック

重要業務を継続に必要な施設・設備をリストアップし可能な代替品も検討して下さい。



# 資金調達

資金調達先・交渉担当者	資金調達手段・方針等	備考

災害時には急速にキャッシュフローが悪化することを織り込んでおく必要があります。事前に資金調達について検討・相談した事項に関する情報を上記に整理して下さい。

# 災害対応データベースの整備

災害対応データベースフォームへの記入もして下さい。

従業員連絡先リスト

主要供給者・業者リスト

設備関連・業者リスト外部支援機関リスト

備蓄計画・実施状況リスト

以上を揃えて BCP が出来上がります。

## 追加事項

比較的規模の大きい医療機関では下記のを追加して下さい。

災害対策組織図

緊急連絡網

職員参集ルール

参加可能人員予測

医療需要の推移予測

被害状況確認シート

緊急対応シート

フロアレイアウト

各部署の優先業務と必要資源

各部署の発生段階ごとの実施業務

# 日常の活動

1. BCP が作成されたら、それに基づき備蓄や訓練の実施を行って下さい。
2. 定期的に BCP の見直しも行って下さい。
3. 建物の耐震診断や家具の固定など減災への取り組みも重要です。防災アクションプランも利用して下さい。

# 災害対策のゴールデンルール

## 1. 災害モードスイッチを入れよ

いざ災害が発生したときには、いち早く頭の中を災害モードに切り替える必要があります。これにより通常ではない状況を素早く認識し、自身や救護チームの行動様式を変容させることが出来ます。深刻な災害では、人は正常バイアスと集団協調性バイアスと呼ばれる思い込みをしてしまいます。極めて危険な状況にもかかわらず、いつもと変わらない行動を集団で取ってしまう可能性があり、危険回避や救護活動が遅れる原因となります。災害モードスイッチを入れることでこれを避けてください。

## 2. 災害はさまざま、解決策は一つ(オールハザード対応)

災害は多様であり、その全てに対応できる詳細な対策を立てることは不可能です。しかし、どの様な危機に対しても「優先度に従い行動する」という手法を取り入れることにより、さまざまな災害に対して常に同じ手順で対応することが可能になります。これは蘇生の ABC と同じ原理です。災害医療において CSCATTT です。Command control 指揮の確立、Safety 安全の確認、Communication 情報伝達、Assessment 評価、Triage トリアージ、Treatment 治療、Transport 搬送。これは最も重要な災害ルールとされています。

### 3. 災害対策は準備が 9 割

当然ながら、被災後の医療救護活動には制約があります。したがって災害対策のほとんどは発災前に行っておく必要があります。「無計画は失敗を計画することと同じ」というルールもあります。

本プログラムは、多くの災害ルールの中から上記のルールを重視し、それに基づき作成されています。

なお、本プログラムは浜松市医師会災害対策委員会作成の「医療機関における防災力強化のための事業継続計画（BCP）策定支援プログラム Ver.1.0」から引用をご了解いただき、参考にして作成しました。

#### 参考文献

防災士教本.

日本防災士機構 防災フレームワーク.

日本防災士会 佐々木勝: 医療従事者のための災害対応アプローチガイド.

新興医学出版社 佐々木勝: 病院の BCP 災害時の医療継続のために.

新興医学出版社 ロブ・ラッセル他: 災害ルール.

ヘルス出版 京盛眞信他: 中小企業経営者のための Q&A でわかる BCP

策定の実務. 税務経理協会 山根義信他: 会社を守る防災マニュアルの  
作り方.

マネジメント社 後藤真澄他: 災害時の要介護者へのケア. 中央法規